

「サハリン旅行」

於保洋生 (S35)



2018年6月中旬、夏至に近い頃、サハリンを旅行した。

目的：

- 1) 今まで、手付かずだった、日ロ国際交流の為の、事前調査をして、人脈と場所のとっかかりをつくること(ソウル、上海には、それぞれ50回近く訪問して、人脈などをつくったがそれと同じくロシアにも人脈などを造りあげたいと思っている)
- 2) 私がT社定年間際に、日本の超一流のS社から舞い込んだ、サハリン駐在の場所を一度観てみたいとかねて思っていたこと(それは、パイプライン敷設の為のサハリン駐在の話で、月給70万円と厚遇だったが、3月31日定年退職の1週間前に出発との事だったので、断念した)
- 3) 「銀河鉄道の夜」などで有名な宮沢賢治がかつて訪れた地を見てみたいと言う家族の提案もありこれ幸いと還暦記念に旅行する事にしたのである。

旅の出だしは良くなかった。と言うのは、航空機が何と丸一日近くも機材不備で遅延してしまい、4泊5日の予定が3泊4日になってしまった為である。

成田空港に着いて、案内画面で、出発時間やチェックイン時間を確認しようとしたのだが、どう言うわけか、いつまでたっても、「indefinite (未定)」のまま、一向に出発時間が表示されない。今まで、上海やソウルに其々50回以上、それ以外も合わせて約150回も海外に行ったが一度も大幅な遅延に有った事がなかったので、当惑した。今回は、そもそも、ハバロスクから成田に着く航空機でユジノサハリンスクに飛行する事になっていたのだが、ハバロスクを機材不備で飛び立たず、成田に到着しなかったという訳であった。

結局、成田のホテルに強制的に待機させられ、出発は翌日になってしまった。

サハリンは、昔はその南半分〔北緯 50 度以南〕がかつて、日本領で、約 50 万人の日本人が居たそうである。北海道の宗谷海峡から僅か 43 キロメートルに南北に長く横たわっている島である。(稚内からは島影を見ることが出来た。)面積は、北海道より狭いと思っていたが、意外にも、北海道とほぼ同じである。人口は、サハリン州〔北方領土含む〕で約 50 万人、州都ユジノサハリンスクで約 20 万人と少なく、人口密度も北海道 (64 人) の 8 分の 1 の 8 人である。州都ユジノサハリンスクに人口が集中しているのは、札幌に集中している北海道の場合に類似している。

成田を出発して僅か 2 時間 10 分ほどで、ユジノサハリンスクに到着した。時間は夜 9 時過ぎだったが外はまだ薄明るかった。

スーパーに寄ってから、ホテルに着いた。木造の綺麗な部屋だった。カウンターは、ロシア語以外に英語も分かった。

言葉についていえば、私は、東外大のロシア科 OB で (約 30 年ロシア語を使わなかったが)、思い出すのが快適で、ボケ防止になると思った。家内も東外大 OG、息子は東大比較言語学科 OB なので、程度は別にしても皆ロシア語の素養もあり、気楽であった。

ロビーでは、パスポートを直ぐにコピーして返してくれた (外出時に持参の要があるので安心した)。

部屋にはシャワーだけでバスタブが無かった (日本人にはバスタブがあると疲れが取れ易くてベターである)。

翌朝、朝食後、ユジノサハリンスクの街を散歩した。印象は、緑が多い事、北海道との類似性が目立つ事等である。

最初、今回の旅行計画時には、昔のガイドブックを読んで、道路横断の時に、車が止まってくれないのではとか危険が有るのではないかとひどく心配していた。

{上海やソウルでは、横断道路も広く、対向右折大型車がとても怖く、いつも地元の人と一緒に横断していた。ユジノサハリンスクでもその心配をしていたのである}

ところが、ユジノサハリンスクでは、道路がそれ程広くなく、青信号内で十分渡りきれ、車もきちんと停車してくれた。横断歩道を渡る限りでは危険は感じなかった。これはむしろ横断歩道で車が減速しない日本の方がより危険なのではとも思った程だった。

又、歩道は車道と同じ程の広さがあり、車道と反対側には、広い街路樹 (白樺やポプラ) を植えたエリアがあり (木の根もとが上海と同じく白い石灰が塗られていたのが目を引いた)、5 階建が多いクバルチーラ (集合住宅) が並んでいた。

ホテルを出て 5 分程歩くと、アントンチェーフ記念劇場があり、行ってみると、掲示板に加藤登紀子のコンサートのポスターが貼って有った。

そこから、駅（バグザール）方面にゆっくり歩くと、両側には4・5階建てのオフィスみたいな建物が並び、ところどころに売店がある。

レーニン広場を通り過ぎると駅が見えてきた。中に入ると、荷物検査員がいて、ハバロフスク駅程には大きくない場内だった。周辺には又、中距離バスターミナルがあり、それほど綺麗でないバスが並んでいた（ここから、ホルムスク（真岡）、コルサコフ等向けにバスが発着している）。

両側の所々には、キオスクがあり、新聞、雑誌、飲料等が売られていたが、心なしか、17年前のハバロフスクと比べると点数が少ない気がした。消費生活の変動であろうか。スーパーは、商品構成は広がったが、日本並みの価格であった。

駅の北側には、自由市場があり、鮭、鱒、昆布、カニなどいろいろな海産物を売っていた。海外旅行すると、現地の物価が気になるのだが、ユジノサハリンスクのスーパーでは、日本並み以上で安く感じなかった。基本通貨はルーブルで、17年前のハバロフスクでは1ルーブル=約3円だったのが、今年のユジノサハリンスクでは、約2円だった。

そもそも、もし、一日の遅延が無ければ、車をチャーターして、宮沢賢治の訪れた、栄浜、落合（ドリンスク）、白浦や白鳥湖等を見て回る計画も有ったのだが、遅延の為、断念して、ユジノサハリンスク散策に変え、昼も市内のロシアレストランをエンジョイした（最初、目で、料理内容を確認できる「スタローバヤ」を探したが閉店していた）。味は美味しかった。

昼食後、メインストリートである、コミュニーチェスキー大通り（昔の神社通り）を東に歩くと、サハリン州郷土史博物館が在ったので、入館した。外観は日本の城の様で、前庭には噴水があった。（昔の樺太庁博物館）入口では大きな熊の剥製が出迎えてくれて、サハリンと千島のいろんな分野の8万点の資料を展示している。中では、日本との国境石やアイヌの熊祭りの資料が興味を引いた。

市内を歩いていて感じた事は、自転車に殆ど出会わなかったこと、又、人出が少ない事であったが、後で人口密度が約8人と分かって、なるほどと思った。

（シベリヤでも人口が少ない事がロシアの弱点だと言われている。サハリンもそうであろう。シベリヤのロシア人は対日感情が良いそうだが、これと人口が少ないことを考えて、日ロ交流や経済交流を考えたらどうなのかと常常思う。北方領土の共同経済交流にサハリンも含めたら良いのではとも思う。

又、サハリンのあちこちに有る旧日本の製紙工場等の工場跡を、日ロ協力して世界遺産に登録して観光客を呼び込んだら面白いのではないかと思う。又、いずれ、ナノマイクロファイバーの時代になれば、サハリンやシベリヤは大きな原料供給基地になるのではないかとも思う。）

丁度、ロシアカップサッカー大会がロシア各地で開催されていて、サハリンでも記念硬貨を販売していたが、後で、新聞で、「ロシア風の御もてなし」が評判になっている

と書いてあったが、サハリンでは、レストランでのウェイトレスがにこりともしない感じが多く、又、飛行機のエアホステスが地響きを立てて、歩き回るのには閉口した。ただ、足がスラッと長く格好良い人が多かった（男性も）。モスクワでも日本食が大人気なそうなので、もっと多くの日本レストランが日本風御もてなしと共に世界各地に広まる事を期待したい。

今回は、サハリンだけを見て回ったが、次回は、ウラジオストックやナホトカにも行ってみたいと思いながら帰路に着いた。

主として、日本の製造業の海外展開の促進を図ることを目的として、1991年、日本政府とロシア政府の間で「日露経済協力に関する覚書」が締結された。この覚書に基づき、両国間の経済協力を促進するための様々な取組が実施されている。その中でも、製造業の海外展開の促進は重要な課題の一つである。本稿では、製造業の海外展開の促進を図るための様々な取組について、その現状と課題を考察する。



1 関野

のり関一モ一オの内スレハホ一モ一オの門前各のレムレマ
 三受取おレモエマ管理

この覚書に基づき、両国間の経済協力を促進するための様々な取組が実施されている。その中でも、製造業の海外展開の促進は重要な課題の一つである。本稿では、製造業の海外展開の促進を図るための様々な取組について、その現状と課題を考察する。